

手術支援ロボットによる人工股関節手術

# 人工関節センターの開設に向けて

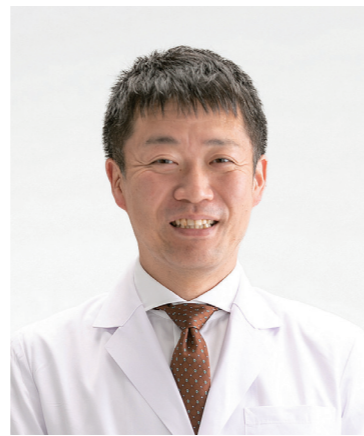
かどわき まさる  
整形外科 助教 門脇 俊

わが国では高齢化が進行するにつれて関節の老化により痛みを生じる「変形性関節症」の患者さんが年々増加し、当院でもその手術療法である人工関節置換術を膝・股関節を合わせて年間 200件以上を実施しています。

2023年12月、ロボティックアーム手術支援システム「Mako」が稼働し、より高水準な人工関節置換術を提供できる体制が整いました。人工関節置換術の成功には、専門的な知識と正確な技術を持った医師による手術はもちろん、術後の管理や安全なリハビリテーションのために看護師や理学療法士にも高度な技術・知識が求められます。

そのため高度な専門性を持った多職種のチームとして人工関節センターを設置し、より高い診療水準を達成することを目指します。これによって関節痛に悩む多くの患者さんが人工関節手術を受けることが可能となります。

これからも地域住民の皆様の健康に貢献できるよう努力してまいります。今後共どうぞよろしくお願ひ致します。



問合せ先 整形外科 外来 TEL : 0853-20-2385

## 島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

3月15日～4月14日

対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
3/24(日) 10:00~12:20	スポーツメディカルセンター開設記念 講演会『アスリートの未来を守る』	出雲市民会館 3階 301会議室	一般	島根大学医学部附属病院 リハビリテーション部

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。

Vol.125  
2024 03  
島根大学  
島根病院ニュース

2024年3月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



Shimane University Hospital  
島根病院ニュース

2024年  
3月  
Vol.125

# NEWS



## CONTENTS

中表紙

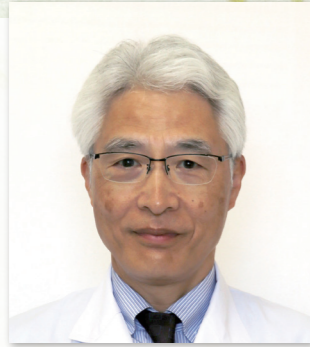
・退職のご挨拶

裏表紙

・人工関節センターの開設に向けて  
・研修会・講演会・セミナー開催情報

表紙: (左から)

薬剤部 教授 直良 浩司  
生化学講座 教授 浦野 健  
微生物学講座 教授 吉山 裕規  
免疫学講座 教授 原田 守



薬剤部 教授・薬剤部長 なおりら こうじ  
直良 浩司

このたび3月31日をもって定年退職を迎えることとなりました。1981年に薬剤師として採用されて以来43年間、当院で勤務し、多くの方々から多くのことを学ばせていただきました。

私が就職した当時は、薬剤部の業務は調剤や製剤が主体でしたが、徐々に病棟での臨床業務や診療チームでの活動へと広がっていきました。2008年に薬剤部教授・薬剤部長を拝命し、医薬品の安全管理をはじめ、病棟薬剤業務の拡大・充実、薬剤師外来の開始、薬剤部の品質マネジメントシステムISO9001認証、医薬品費の削減などに取り組んでまいりました。この間、院内外の皆様に多大なるご支援、ご協力をいただきましたことに、心より御礼申し上げます。

今後の皆様のご発展を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。



免疫学講座 教授 ほらだ まもる  
原田 守

大学を卒業し脳神経外科に入局後、悪性脳腫瘍に対する新しい治療法の研究をしたくて大学院生としてがん免疫の研究を始めました。

日本ではマウスを用いた動物実験をしていましたが、当時からがん免疫の基礎と臨床のトップを走っていた米国NIH/NCIのRosenberg博士がチーフを務める腫瘍外科部門に留学しました。帰国後は、久留米大学で癌ワクチンの基礎と臨床の研究を行い、2006年に島根大学医学部免疫学講座に赴任しました。その後、免疫チェックポイント阻害療法の出現で臨床におけるがん免疫療法の立場は一変しました。島根大学に赴任してから、がん免疫の研究者としてこの小さな研究室で何ができるだろうと試行錯誤しながら研究を行い、3月を持ちまして定年を迎えることとなりました。

教育・研究の機会をいただいた島根大学医学部に心より感謝いたします。



生化学講座病態生化学 教授 うらの たけし  
浦野 健

2007年6月に着任し、この3月で定年退任いたします。17年間島根大学での教育・研究および大学の管理・運営に携わらせていただき、大変充実したものとなりました。本当にありがとうございました。国内外の著名な講師をお招きした病態生化学セミナーは146回に及び、また概算要求や補正予算などに積極的に申請・獲得し、最新機器を導入するなど、出雲キャンパスの研究基盤の構築に携わってきました。そして、2022年には概算要求を獲得し、新興感染症ワクチン・治療用抗体研究開発センターを設立し、次世代ワクチン・治療用抗体の研究開発を進めています。これらもすべてみなさまの力強いご支援の賜物と感謝しております。

これからも、島根大学において研究および研究支援に関わらせていただく予定ですので引き続きよろしくご依頼申し上げます。



微生物学講座 教授 よしやま ひろのり  
吉山 裕規

この度、私は10年と1ヶ月間忙しくも充実した日々を過ごさせていただいた島根大学医学部を離れることとなりました。

在任中は、細菌学、ウイルス学の講義と、細菌学実習を担当させていただきました。若い学生に悩まされ、時には活力をもらい、教育に携わりました。研究は外国人留学生に囲まれて進めました。その間、コロナ禍などの困難な局面もありましたが、皆様の助けもあり、乗り切ることができました。

島根大学附属病院が島根県の医療を不沈空母のように支えていることを、様々な局面で感じました。コロナ禍においては、地域医療の核として医療を継続するという皆様の強い使命感に感激しました。私の身内がリンパ腫になった時には、血液内科の鈴木教授や消化器外科の平原科長から、貴重で的確なアドバイスをいただきました。皆様と共に働いた瞬間は私の人生において忘れられないものとなりました。

心から感謝いたします。大変お世話になりました。



# お知らせ

島大病院ニュース 2024年3月



# お知らせ

島大病院ニュース 2024年3月

## 安全な周術期管理のために

麻酔科 教授 にかい てつろう  
二階 哲朗

麻酔科が医療の中で担う役割のひとつに、安全な周術期管理の実践が挙げられます。目的とする手術を達成し、早期に退院を図ることが手術にとって最も重要なこととなりますが、手術自体には侵襲が伴います。この手術侵襲により、時に手術を受ける患者さんにはさまざまな合併症が生じる可能性があります。

大きな合併症（特に循環系・呼吸器系・感染症）は入院期間を延長させ、生命予後にも影響を及ぼします。また、周術期に生じる合併症は患者さんの

身体能力や併存する疾病が大きく関与するとされています。特に心臓疾患・呼吸器系疾患・生活習慣病を有する方は疾患をできるだけコントロールし、手術にのぞむ必要があります。

麻酔科術前外来では疾患のコントロールができていないか、手術に適した全身状態であるかをチェックし、必要に応じて内科専門医へコンサルトを行います。また高齢者に対してフレイルやサルコペニアの対策が必要です。術後 ADL や認知機能が悪化しないよう術前より栄養管理を含めたプレハビリテーション（※）、せん妄対策を行います。そして、術後疼痛管理はとても重要です。疼痛があることで患者さんにはストレスがかかり離床が遅延します。離床の遅れは循環系・呼吸器系の合併症を招くだけでなく、免疫機能やフレイルの悪化にもつながります。

患者さんにとって安心、安全な周術期管理のためには、医療多種職連携によるチーム医療を実践することが重要となります。当院では周術期管理チームが包括的なチームによる術前管理を行います（写真1）。また来年度からは術後疼痛管理チームが結成され術後疼痛管理にあたります。麻酔科医は術前から術後にかけて連続的な周術期管理のコンダクターの役割を担い手術医療に貢献していきます。

※プレハビリテーションとは：手術の前から行う体力強化を目的としたリハビリテーション。手術合併症を減らすことで近年注目されている。



問合せ先 麻酔科 外来 TEL : 0853-20-2393

## 難病総合治療センターの取り組み ～小児慢性疾患の自立支援～

難病総合治療センター センター長 こんどう まさひろ  
近藤 正宏

小児慢性疾患の予後改善とともに自立支援（移行期医療）の重要性が認識されるようになってきました。

小児期に慢性疾患に罹患し、闘病生活が始まった患者さんは保護者と一緒に受診することが多いです。そのため症状を医師に伝えたり、医師の説明を聞いたりといったやり取りは医師と保護者との間で完結してしまう傾向になってしまい、肝心の患者さんがなおざりになってしまいう傾向にあります。そうした患者さんもしづれは進学や就職を機に親元を離れなければなりません。その時、自分の症状を医師に伝えることができない、自身の疾患についてや服用している薬についての理解がないことなどが、治療の中断や服薬コンプライアンスの低下につながり、ひいては疾患の増悪という最悪の結果を招くことが少なくありません。

そのため、小児期に自立支援をしっかりと行うことは、小児慢性疾患患者さんの将来にとっても重要な意味を持ちます。当センターでは一昨年よりワーキンググループを立ち上げて議論を重ね、自立度を評価するチェックシート（図1）を作成し、昨年4月より自立支援を開始しています。

自立支援はどの施設でもまだ手探りで進めている状況ですが、当院でもチェックシートを用いた自立支援の有効性について検証も併せて行い、さらに充実した自立支援を行っていきたく考えています。

図1 移行支援チェックシート（子ども用）

当てはまるものに○をつけてください

1. 自分の病名が言える	はい ・ いいえ
2. 定期受診を忘れずに診察を受けることができる	はい ・ いいえ
3. 自分のかかっている病院と主治医の名前が言える	はい ・ いいえ
4. どんな症状や体調不良があったら受診するのかわっている	はい ・ いいえ
5. 困りごとやわからないことを医師・看護師に質問できる	はい ・ いいえ
6. 今まで受けた治療内容（入院、手術、検査など）を知っている	はい ・ いいえ
7. 医師に質問や自分の思いを伝えることができる	はい ・ いいえ
8. 医師、看護師、薬剤師などからの質問に答えることができる	はい ・ いいえ
9. 自分の病気のことを家族以外（教師・友人など）に説明ができる	はい ・ いいえ
10. 学校行事の参加について、医療者に相談できる	はい ・ いいえ
11. 学校で、体調変化を感じた時や一人で解決できない時、教師や友人に援助をお願いできる	はい ・ いいえ
12. 内服薬は自分で準備し、飲み忘れないや、足りないときの対処を知っている	はい ・ いいえ
13. 困りごとや悩みを家族や友人に相談している	はい ・ いいえ
14. 外来の予約方法を知っている	はい ・ いいえ

問合せ先 難病総合治療センター TEL : 0853-20-2196



2024年3月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2024年3月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





# ご報告

島大病院ニュース 2024年3月

## 「しまねMAMEインフォ」を リニューアルしました

島根大学医学部環境保健医学講座は島根県と共同して、県民の皆さんの健康寿命の延伸を目指し、健康づくり情報を普及啓発するための動画サイト「しまねMAME インフォ」を運営しています。このたび、ホームページをリニューアルしました。

「しまねMAME インフォ」は、島根大学内外の専門家の方々のご協力を得ながらコンテンツを企画・作成し、テレビCMやタブロイド紙（山陰中央新報「りびえ〜」）等の媒体を使って周知をしています。2024年3月末までに動画31タイトルが揃い、今後も続々登場します。県民の皆さんに直接視聴していただくのはもちろんのこと、診療や保健指導の現場での教材としても役立ちます。ぜひ一度ご覧になってください。

視聴後にアンケートにお答えいただくと、「ドクター吉田くん」グッズが当たる抽選に応募できます。動画を見るために会員登録の必要ありませんが、登録していただくと新しい動画の案内が届きます。



問合せ先  
環境保健医学講座ヘルスアップ担当  
TEL 0853-88-3064

環境保健医学講座 教授 名越 究  
助教 たにくち 谷口 かおり



監修)島根大学医学部附属病院 栄養治療室



# ご報告

島大病院ニュース 2024年3月



対話面談Zoom画面

対話面談の様子(右端が筆者)

## 文部科学省、令和5年度大学における 医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業 (通称:コアカリFD)対話面談のご報告

救急医学講座 助教 みうら せいこ  
三浦 聖子

私は、日本医学教育学会医学教育モデル・コア・カリキュラム調査研究特別委員会の一員として活動し、令和4年度改訂コアカリを普及させる目的で全国の各大学の取り組み、導入時の問題点の抽出を行ってきました。

2023年12月18日(月)、島根大学医学部に対するコアカリFD対話面談の調整役を担当しました。当日はオンラインにて、半構造化インタビューの形式で開催されました。

コアカリFD対話チームからは、松山泰先生(自治医科大学)、村松友佳子先生(名古屋大学)、岡崎史子先生(新潟大学)、島根大学側は、石原俊治医学部長、竹谷健教授(小児科学)、長尾大志教授(地域医療教育学)、佐野千晶教授(地域医療支援学)、山根正修教授(呼吸器外科学)、岩下義明教授(救急医学)、深見達弥教授(医療安全管理部)と筆者、そして学務課職員が参加しました。

FD当日は参加者から「島根大学医学部には教育理論を理解し能動的に取り組まれている教員が多いが、なぜこのようなことが可能なのか」との質問があり、「特性として寄附講座、地域の御支援があり、大学の特徴として医学教育にコミットする教員が増えてきているため」と石原医学部長より返答がありました。

今回の対話面談を受けて、2023年12月27日(水)、オンラインシンポジウム「島根大学の取り組み〜地域の総合診療医による症候学と全学生4週地域CC〜」(白石吉彦先生)を全国に発信することができました。

対話面談の設営にご協力いただきました皆様に感謝すると共に、日本の医学教育の発展のために、島根大学の工夫を惜しみなくご紹介いただきましたことに心から御礼申し上げます。

<https://core-curriculum.jp/>  
R4年度改訂医学教育モデル・コア・カリキュラム



<https://vimeo.com/r04mccmed>  
各資質・能力の動画ファイル



問合せ先 救急医学講座 事務室 TEL : 0853-20-2402



2024年3月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2024年3月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





# ご報告

島大病院ニュース 2024年3月



## 第118回医師国家試験国試ツアー

学友会代議員会学修支援委員会 国家試験等対策部会長 島根大学医学部医学科2年 こんどう はつね  
近藤 初音

2月3日(土)～4日(日)、第118回医師国家試験が行われました。

本当に多くの方のサポートの下、4日間の国試ツアー(※1)を無事終了させることができました。今年度より体制が大きく変わり、例年は5年生がツアー準備を行っているところを2年生が主体となって行うこととなりました。昨年3月、前任者から引き継ぎを行い、秋口の頃からホテルやバスの手配、しおりづくり、その他実施に向けた協議、調整を何度も重ねてきました。

主体は2年生となりましたが1年生から5年生まで全ての学年で動くため、上級生へ指示を出さなければいけない場面もありました。初めての試みであることや、慣れない作業も多くありとても忙しく緊張感のある半年でした。

試験前々日にあたる2月1日(木)、石原医学部長、竹谷副学部長、楯医学科長にご出席いただき壮行式を執り行いました(写真1・2)。当日は各講座からも激励のビデオをいただき(写真3)、緊張している受験生からも時折笑い声が上がっていました。

楯医学科長からの「当日、受験票を忘れたことに気づいても焦らないでください。係員に申し出れば大丈夫です。受験票を忘れないことが一番ですが、受験票を忘れたのは数十年前の私です。試験頑張ってください」というメッセージ(※2)は、多くの受験生の緊張をほぐしたことでしょう(写真4)。各講座の先生方、当日お越しくださった先生方、改めてご協力ありがとうございました。

2年生にしてこのような立場で働くことができ大変貴重な経験となりました。直前2週間は不安で眠れない夜が続きましたが、それもまたいい思い出です。この仕事は後輩へと引き継ぎますが、OGとしてできる限りサポートしてまいります。

※1 医学部学生の全員をもって組織される学友会では、医師国家試験受験の便に供するため「国試ツアー」として受験者の宿泊先、移動手段の手配等を行っています。

※2 メッセージの一部に伝言ミスがあり、「受験票を忘れたのは、十数年前に指導をしていた学生」だったそうです。

問合せ先 学務課学生支援・総務担当 TEL: 0853-20-2088



2024年3月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



# ご報告

島大病院ニュース 2024年3月



出席者: (右から) 椎名浩昭病院長、安田謙二センター長、  
公益財団法人ヘルスサイエンスセンター 広沢卓嗣理事長、  
島根県健康福祉部健康推進課がん対策推進室 和田久史室長

kubiを通して遠隔授業のデモを行う  
安田謙二センター長

kubiでは、アバターを設定して  
授業に出席することもできます。

長期入院中の  
高校生を対象に

## 遠隔授業機器(kubi)の導入について

総務課企画調査係

2月8日(木)、がん等の治療により当院に長期入院中の高校生を対象とした遠隔授業機器(テレプレゼンスロボット kubi(通信機能内蔵ロボット))の導入について、報道発表を行いました。

がん等の治療により長期入院となった際、小学生や中学生の場合は院内学級がありますが、高校生の場合は院内学級等がないため、修学上の課題や、在籍している高校とのつながりの確保が難しいという課題がありました。この課題に対応するため「島根県のがん対策募金」を活用し、遠隔教育を支援する機器を整備したものです。

この機器は、左右に300度、上下に90度自由自在に稼働することができる上、タブレット端末とkubiを繋ぐことにより、病院にいながら教室での授業に参加することができます。またタブレット上で機器を操作することができるため、板書の文字等を自由に拡大して、確認することが可能となります。

当日は、椎名病院長、子どもとAYA世代サポートセンターの安田謙二センター長、そして公益財団法人ヘルスサイエンスセンター広沢理事長、島根県健康福祉部健康推進課がん対策推進室和田室長に出席いただき、導入の経緯等について説明した後、実際に機器を使った様子を実演しました。

今後も、当院は小児医療の充実に向けて、様々な取り組みを行ってまいります。

問合せ先 総務課企画調査係 TEL: 0853-20-2531



2024年3月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





# ご報告

## 看護管理者研修を行いました！

看護部長 かわかみ としえ  
川上 利枝

当院の看護部では、毎年、看護管理マネジメント向上への取り組みとして、看護管理者研修を行っています。今年度は、12月2日(土)午前、看護管理者として、安全性を高めるチーム医療を考え、質の高い看護を提供していくために、講師として、医療安全管理部深見教授をお迎えし、「TeasmSTEPPS 研修」を企画しました。看護部長、副看護部長、看護師長、副看護師長の85名が参加し、11グループに分かれ、演習、講義を受けました(写真1・2)。チーム医療の鍵となる考え方を共有し、より良い実践と患者の安全を高めるマネジメントを考える場となりました(写真3)。

午後からは、島根県看護協会が主催している2023年度看護管理者研修(ファーストレベル)受講者の副看護師長5名より、「看護管理者研修ファーストレベルの受講を受けて、看護管理者として看護サービス、看護の質について学んだこと」について報告会を行いました(写真4)。その後、今回の発表をうけて各部署単位で、「自部署の目標と照らし合わせて、看護実践を深めるために看護管理者としてどのようにマネジメントを行っていくか」話し合いを行いました。今後も、管理者研修の企画に取り組み、質の高い看護を提供できるマネジメントや生涯学習できる環境作りに努めてまいります。

写真3 管理者研修を受講している様子



写真1 川上看護部長の挨拶



写真2 TeasmSTEPPS研修で演習を行っている様子



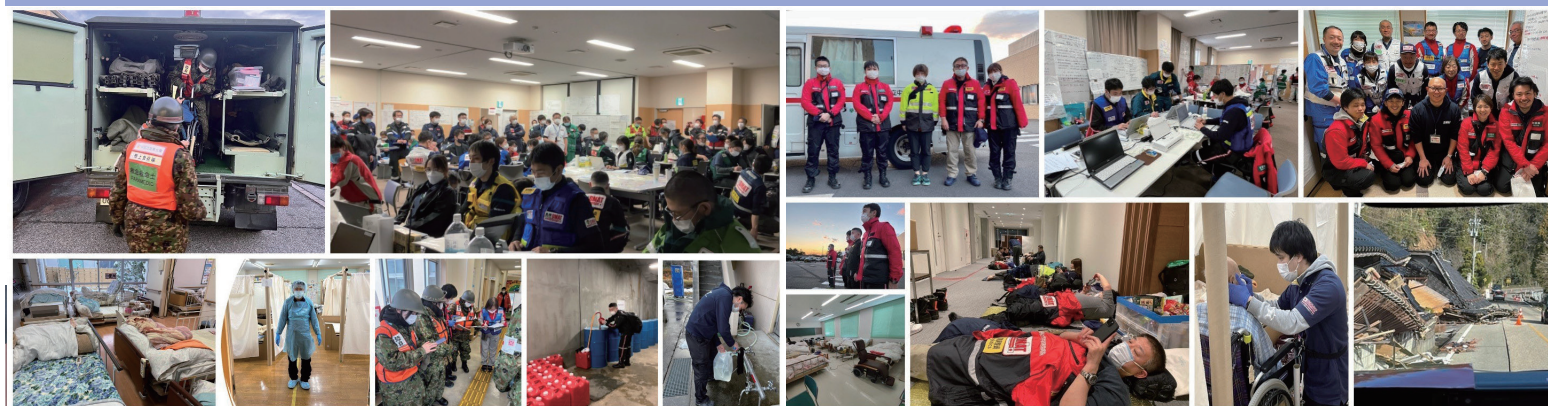
写真4 看護管理者研修(ファーストレベル)受講後の報告発表



問合せ先 看護管理室 TEL: 0853-20-2478



# ご報告



(災害派遣医療チーム)

## 石川県能登半島地震によるDMAT派遣について

高度外傷センター 助教 おか かずゆき  
岡 和幸 (DMAT隊員)

2024年1月1日(月)、石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6、最大震度7の地震(令和6年能登半島地震)が発生しました。当院災害医療・危機管理センター(DiMCOC)では域外災害モードを発令するとともに、災害派遣医療チーム(DMAT)隊員は出動に備え待機に入りました。

1月7日(日)に島根県から当院にDMAT隊派遣要請が下り、同日に第1次隊を能登半島に派遣致しました。能登医療圏活動拠点本部において、物資調整の本部活動を担当し1月11日(木)に帰還いたしました。

さらに県からの要請で1月10日(水)~15日(月)まで第2次隊を派遣しました。石川県珠洲市の航空搬送拠点臨時医療施設において、関係各機関と連携して搬送調整や診療及び避難者対応にあたりました。さながら病院と同様に、24時間の看護対応や傷病者の食事介助などを行い、臨時感染症病床においての感染管理も行いました。

その後も被災地での保健福祉の必要性が高まり、島根県立中央病院との合同チームを結成して1月23日(火)~26日(金)まで第3次隊を派遣致しました。石川県能登町の高齢者施設において現場調査を行い、保健所等と連携をとりつつ、施設支援のために必要な人手や資機材等の調達に尽力いたしました。

今もなお避難生活を余儀なくされている被災者の皆様に心からお見舞い申し上げますとともに、被災地の一刻も早い復興をDMAT隊員一同心から願っております。

島根大学医学部附属病院災害派遣医療チーム(DMAT)

- 第1次隊 岡和幸、遠藤篤也、鴨山桂子、石原慎之、日野哲弥
- 第2次隊 室野井智博、森山詠美子、三根達也、谷口真保、阿部啓太
- 第3次隊 布野慶人、中島瑠南、山崎彰吾、小村悠太

問合せ先 災害医療・危機管理センター(DiMCOC) TEL: 0853-88-3040





# ご報告

医学生に  
対して

## ドクターキャリア形成特別講義を開催しました

地域医療支援学講座 助教 ほった ゆきえ  
堀田 優希江

2023年12月14日(木)、臨床実習入門前の医学科4年生を対象に、ドクターキャリア形成特別講義を島根県医師会との共催にて行いました。午前の部では広島大学医学教育センター長の蓮沼直子先生により、「ライフイベントとキャリア」についてグループワークを行いました。

午後からは、キャリアモデルとして3名(呼吸器・化学療法内科 濱口愛先生、小児脳神経センター 君和田友美先生、脳神経内科 安部哲史先生)の医師に経験談を交えながらお話しいただきました(写真1・2)。

特別講演として、WHO 流行感染症シニアアドバイザーの進藤奈邦子先生に、ジュネーブよりライブ配信にてお話しをいただきました。先生が医師を目指した理由から、海外での研修、脳外科医、感染症内科医を経てWHOで働くまでの経緯をお話しいただきました(写真3)。順風満帆ではない部分もあったこともお話しされ、大変勇気づけられる貴重なお話でした。

医学部では、キャリア教育や国際保健の授業を行っています。講義を通して、自分のキャリアを見つめ直す、また考える時間をもつ良い機会となってくれたらと思っています。

ご協力いただいた先生方並びに関係者の皆様、ありがとうございました。

写真1 キャリアモデルの紹介



写真2 講義風景



写真3 進藤奈邦子先生



問合せ先 地域医療支援学講座 事務室 TEL: 0853-20-2558



# ご報告

## 統合腎疾患制御研究・開発センター( IKRA ) 腎老化制御部門 特任教授就任のご挨拶

特任教授 うへだ せいじ  
上田 誠二

この度、2月より統合腎疾患制御研究・開発センター(The Center for Integrated Kidney Research and Advance, IKRA)に新設されました腎老化制御部門に特任教授として就任いたしました上田誠二と申します。

IKRAとは昨年度より発足された腎臓の診療・研究に携わる金崎啓造教授(内分泌代謝内科)、神田武志教授(腎臓内科)、一瀬邦弘教授(膠原病内科)、牧石徹也教授(総合診療科)、和田耕一郎教授(泌尿器科)、矢野彰三准教授(臨床検査科)をコアメンバーとした臨床・教育・研究の協力体制です。この一員に加えて頂けることを大変心強く、また誇らしく思っております。

私は1995年に久留米大学を卒業後、研修・大学院を経て、2016年3月までは同院の腎臓内科奥田誠也教授のご指導のもと、2016年4月～2024年1月までは順天堂大学腎臓内科の鈴木祐介教授のもと診療・教育・研究に携わってまいりました。私は慢性腎臓病(CKD)患者の合併症、特に心血管合併症(心腎連関機序)を専門にしております。未曾有の超高齢化社会をむかえた我が国においては、今後も加齢に伴う腎硬化症による末期腎不全が増加していくことが危惧され、その対策は喫緊の課題であると考えております。そのような中、今回の役職を賜ったことに身が引き締まる思いです。この4月から新たに加わる特定助教の2人とともに、他部署とも協力し一日でも早くベッドサイドに還元できるような有意義かつ先進的な研究を推進できるよう全力で努力する所存です。ご指導のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



問合せ先 統合腎疾患制御研究・開発センター TEL: 0853-88-3135





# ご報告

消化器外科領域  
山陰地方で女性初!!

## da Vinci Xi Consol Surgeon の Certificate を取得しました!

消化器外科 助教 たかい きよえ  
高井 清江

この度、念願であった da Vinci Xi Consol Surgeon の Certificate を取得することができました(写真1)。Consol Surgeon とは da Vinci に代表される、手術支援ロボットを用いて手術を行う資格のある医師のことです。消化器外科領域では山陰地方初の女性での取得となり、このような機会を与えていただき、日々支えてくれた上司・後輩の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

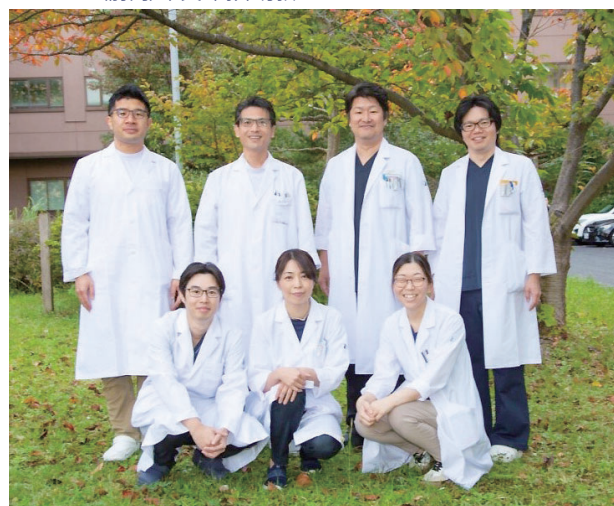
さて、大腸がんの中でも直腸がんの手術といえは一昔前まで大手術でした。しかし時代の流れとともに手術機器は進化し、より患者さんにとって負担の少ない手術が開発されてきました。当科では日本内視鏡外科学会技術認定医3名を擁しており、スタッフ7名体制で大腸がんに対し腹腔鏡手術からロボット手術まで、より安全でより高精度な手術を提供できるよう日々修練を重ねております(写真2)。

島根県の大腸がん治療を牽引できる術者となれるよう、更に後進を指導できる知識と技術を持てるよう、これからも真摯に現実と向き合いながらチーム一丸となって研鑽を積んでいきたいと思っております。

写真1 取得の証明書



写真2 消化器外科 大腸グループのメンバー(前列)中央:高井助教



問合せ先 消化器外科 外来 TEL: 0853-20-2384



# お知らせ

## MCI外来開設のお知らせ

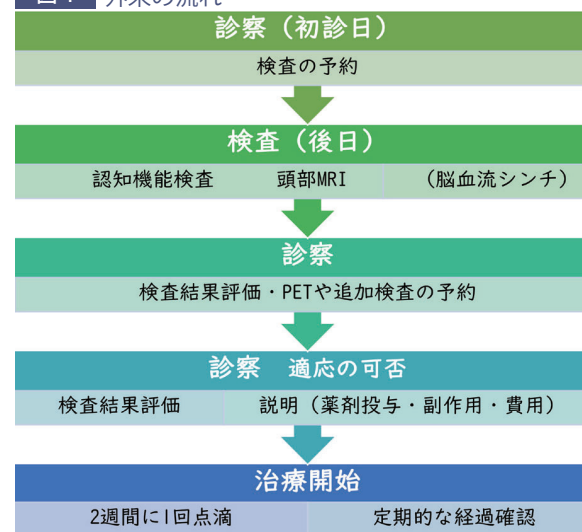
基幹型認知症疾患医療センター センター長 ながい あつし  
長井 篤

病院ニュース2月号において「アルツハイマー病による軽度認知障害及び軽度認知症」の進行抑制を目的としたレカネマブ(商品名:レケンビ)治療についてご紹介させて頂きました。その後、お問合せを頂くことも多く、レカネマブ治療希望によるご相談や診療を進めていくために、“MCI外来”(mild cognitive impairment:軽度認知障害)として開設することとしました。

診療の流れは、**長谷川式認知症スケール概ね18点以上かつアルツハイマー型の認知機能障害が疑われる患者さんをご紹介頂きます(18点未満の場合はもの忘れ外来にご紹介下さい)**。患者さんの症状やご希望をお聞きしながら、詳細な認知機能検査、頭部MRI検査、PET検査または髄液検査によるアミロイドβ沈着の評価などを数回の受診を経て適格性を確認します。レカネマブ注射の副作用・費用などについて十分な説明を行った上で、希望される方に2週間に1回の点滴治療を18か月間行う予定です(図1)。脳神経内科および精神科の専門医を核として、チーム医療で着実に診療を進めていきますので、ご協力をお願いします。ARIA(amyloid-related imaging abnormality)などの副作用について定期的に判断し、症状出現時には脳卒中センターなどで救急対応します。また、必要に応じて連携施設にお願いして点滴を継続頂くこともあるかと思っております。

希望の方がおられましたら、予約の際に長谷川式認知症スケールを評価頂き、**患者予約申込書の特殊外来の( )の中に「MCI外来希望」と明記してFAXにてお申込みください(裏面 図2)**。これまで通り、もの忘れ外来から鑑別診断や診療を継続していく中でレカネマブ治療の対象となり、治療を受ける場合もあると思っております。MCI外来でも、もの忘れ外来でも、もの忘れが気になる方に寄り添う医療を続けて参ります。また、認知症疾患医療センタースタッフが相談対応等も行っております。お気軽にご相談ください。

図1 外来の流れ



問合せ先 基幹型認知症疾患医療センター TEL: 0853-20-2630







# お知らせ

図2 患者予約申込書

## 島根大学医学部附属病院紹介患者予約申込書(FAX)

令和 年 月 日

(令和6年1月改定)

島根大学医学部附属病院

地域医療連携センター 行

FAX 0853-20-2063

TEL 0853-20-2061

受付時間: 8時30分~19時

紹介医療機関名称

医師氏名(診療科)

電話番号 ( ) -

FAX番号 ( ) -

患者様は貴院でお待ちですか? →  はい  いいえ

●患者基本情報 ※必ずふりがなをご記入下さい

ふりがな		旧姓	性別	生年月日
患者氏名			男・女	大・昭・平・令 年 月 日( 歳)
住所	〒 -	電話番号		
		携帯電話		
受診歴	有・無・不明	診察券番号	-	-

※当院より連絡する場合があります。

●受診診療科 ※各科の専門領域については診療案内をご覧ください。

<input type="checkbox"/> 内分泌代謝内科	<input type="checkbox"/> 血液内科	<input type="checkbox"/> 腫瘍内科	<input type="checkbox"/> 消化器内科	<input type="checkbox"/> 肝臓内科	<input type="checkbox"/> 脳神経内科
<input type="checkbox"/> 膠原病内科	<input type="checkbox"/> 呼吸器・化学療法内科	<input type="checkbox"/> 腎臓内科	<input type="checkbox"/> 循環器内科		
<input type="checkbox"/> 皮膚科	<input type="checkbox"/> 形成外科	<input type="checkbox"/> 小児科	<input type="checkbox"/> 消化器外科★	<input type="checkbox"/> 肝・胆・膵外科★	<input type="checkbox"/> 小児外科
<input type="checkbox"/> 乳腺・内分泌外科	<input type="checkbox"/> 心臓血管外科(心臓 血管)	<input type="checkbox"/> 呼吸器外科	<input type="checkbox"/> 整形外科(部位: )		
<input type="checkbox"/> 脳神経外科	<input type="checkbox"/> 泌尿器科	<input type="checkbox"/> 精神科神経科★	<input type="checkbox"/> 婦人科	<input type="checkbox"/> 産科	
<input type="checkbox"/> 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	<input type="checkbox"/> 眼科★	<input type="checkbox"/> 放射線科★	<input type="checkbox"/> 麻酔科(ペインクリニック)		
<input type="checkbox"/> 歯科口腔外科	<input type="checkbox"/> リハビリテーション科	<input type="checkbox"/> 総合診療科	<input type="checkbox"/> もの忘れ外来		

※1 下線診療科については、診療情報提供書を可能な限り添付にてFAX送信してください。(原本は受診時に持参ください)

※2 ★の診療科については、外来で調整してからのお返事になりますので、お返事に時間がかかります。予めご了承下さい。

●希望医師名 ※原則、初診担当医による診察とさせていただきます。

医師 ・ 指定なし ・ 特殊外来 ( **MCI外来希望** )

●受診希望日時

① 月 日 ( ) 午前・午後 時頃 ② 月 日 ( ) 午前・午後 時頃  
③ 月 日 ( ) 午前・午後 時頃 ④ 月 日 ( ) までの予約希望

●紹介目的・依頼内容・症状 ※必ずご記入ください。診療情報提供書を添付していただいてもかまいません。

緊急性:  有り  無し 病名(疑い病名):

紹介目的及び症状経過:

折り返し「紹介患者予約連絡票」をFAXいたしますので、患者様にお渡し下さい。受付時間(8:30~19:00)を過ぎてのお申し込みは翌診療日にお返事させていただきますのでご了承下さい。

患者予約申込書の  
特殊外来の ( ) の中に

**「MCI 外来希望」**

と明記して FAX にて  
お申込みください。